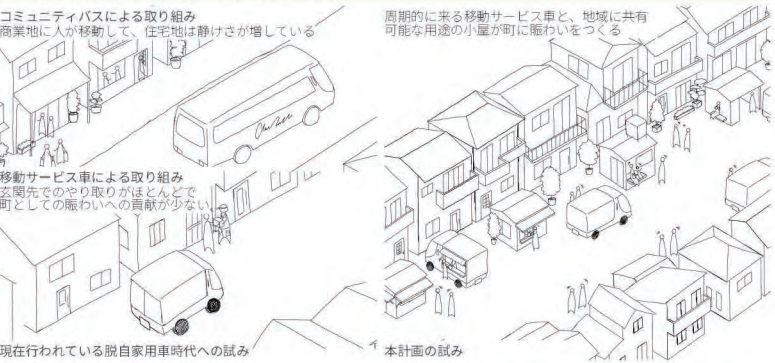
# ハレぐるまとケごやのまちなみ

## 脱自家用車時代の郊外戸建て住宅地における駐車スペースを利活用した町おこし

日本工業大学大学院 坪倉尚矢

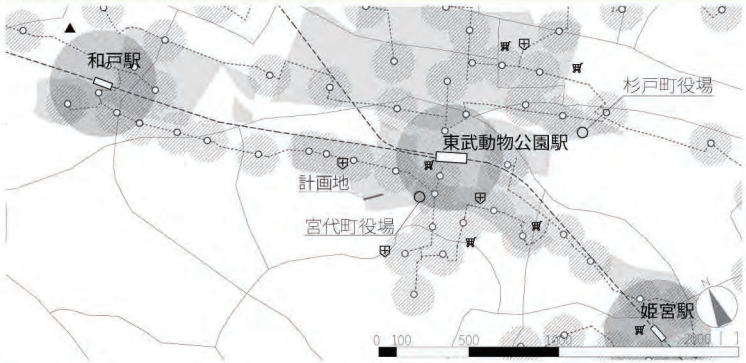
近年、高度経済成長期につくられた郊外住宅地では、半世紀を経て建物の老朽化や居住者の高齢化による問題も散見されるようになった。それらの問題を近代都市計画の観点からみると、自動車を前提として遠くまで移動しなければならない住環境や、核家族を前提とした敷地・建物の規模で住み継ぐことの難しさに起因する空き家問題など、個別の建物のデザインでの解決を超えた大きな問題を抱えているとも言える。
そこで本研究では、郊外の戸建て住宅地に、一時的であっても周期的な賑わいと活気を取り戻すことを目的として、免許の返納や、カーシェアリングの普及によって脱自家用車化されて空く各住戸の駐車スペースを敷地として、周期的に訪れる移動サービス車の受け入れと、地域でシェアすることが可能な用途の小屋を設計する。

## 脱自家用車時代に向けた取り組み




郊外住宅地ではコミュニティバスの運行などもなされているが、人が商業地や病院などへ移動することで、住宅地の側からみると人気が減って静けさが増している状況にある。反対に、通信販売や宅配サービス、店舗の移動サービス車など、居住地に商品やサービスが乗り入れる取り組みもみられるが、玄関先でのやりとりが一般的で、町としての賑わいに貢献しているとは言い難い状況にある。

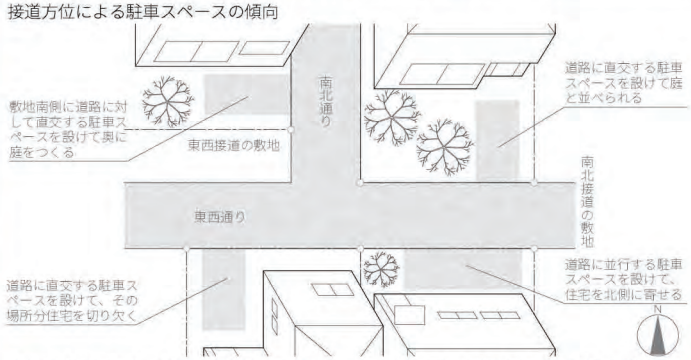
## 移動距離からみた郊外住宅地




農地に鉄道駅が敷かれることで宅地開発された埼玉県宮代町の東武動物公園駅の周辺をケーススタディとして、高齢者が荷物を持ち歩いて移動できる距離を、駅から500m、バス停から200m圏と設定し範囲円を描いた。そこに、住宅地と日常生活をしていくにあたって利用する施設を地図上にプロットした。そうすると、ほとんどの住宅地や施設がその範囲円の中に作られていることがわかる。本計画では、それらの範囲円から離れた場所にある郊外住宅地の街路を計画地とする。

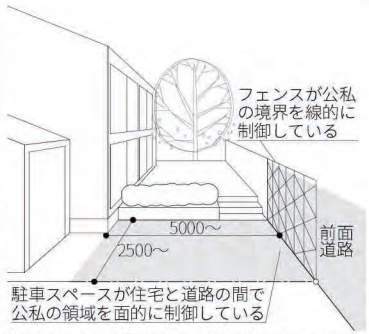
## 郊外戸建て住宅地住宅地における駐車スペースの特性

### 接道方位による駐車スペースの傾向



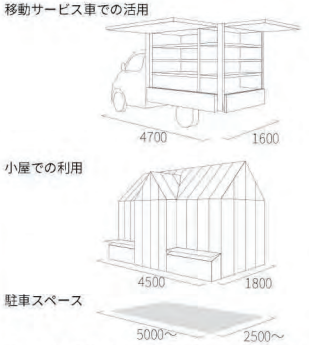

道路に対する駐車スペースの特徴を接道方位毎に整理した。すると、南側と東西接道では道路に直行する駐車スペースを設けて、さらに南側接道では隣に駐車の隣に庭を設けるものが多く、東西接道では、駐車の奥に庭を設けるものが多くみられた。北側接道では、道路に平行する駐車スペースを設けて住宅を道路に寄せるものと、直行する駐車スペースを設けて、住宅を切り欠くものが多く見られた。

### 接道方位による駐車スペースの傾向



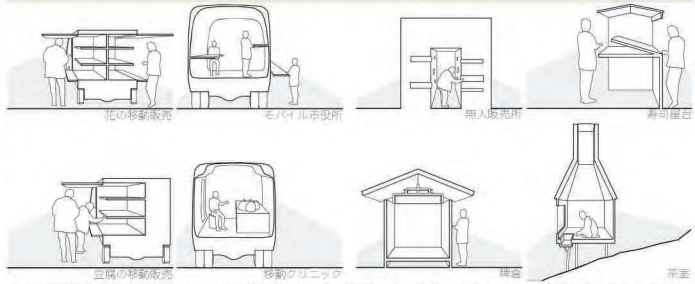

駐車スペースは、道路と連続して舗装されている。そのため、公的な道路と私的な住宅敷地内の中間の領域として面的に制御していることがわかる。また、可動式のフェンスが公私の境界を線的に制御しているものもある。

### 接道方位による駐車スペースの傾向




建ぺい率や容積率と、住宅や駐車スペースの面積の比較から、小屋の建てられる敷地を見出した。建てられない敷地では、移動サービス車で利用する計画とする。

## 駐車スペースの利活用に関わる小屋と移動サービス車



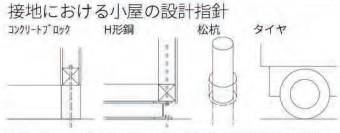

人が内部空間を常時使用すると、小屋や移動サービス車の外側に設えは少なくなるが、内部空間をものが占有すると、外壁やボディに開口部が開かれて庇となったり、屋根の下に半外部空間がつくられ、人の活動が外に現れることがわかる。また接地の仕方が小屋の存在に大きく関わり、地面との連続や、仮設に対応した仕組みがみられることが分かる。

## 小屋の設計指針

### 庇における小屋の設計指針

庇は、雨や日差しを防ぐと同時に、その場に身を委ねる人のふるまいを定着させるものである。屋根が延長される軒下、外壁に付加される庇は外壁の際に人の居場所をつくる。さらに、屋内でありながら外気に開放される屋根下、内外が調整される可動建具の4種類が考えられた。

### 接地における小屋の設計指針

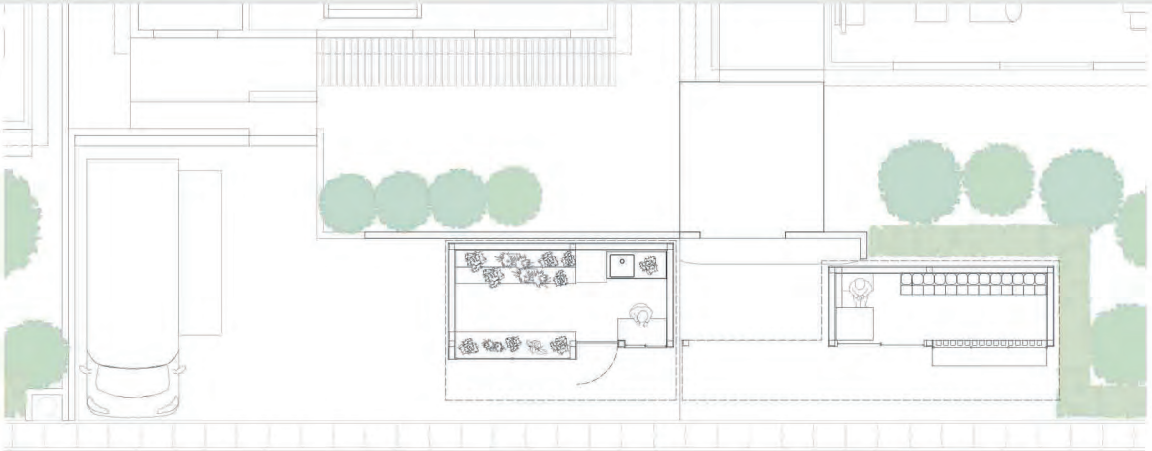


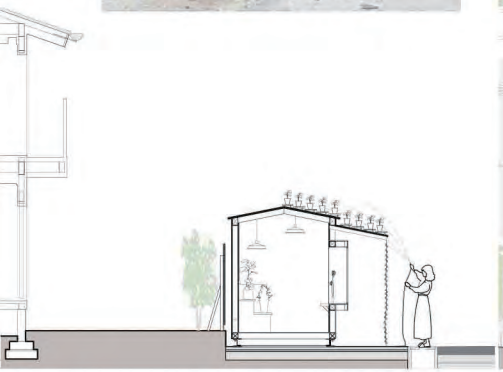

接地では、駐車ｽﾍﾟｰｽのｺﾝｸﾘｰﾄ舗装との関わりが重要な検討事項となる。平坦なところでは、ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸやH型鋼を用いた接地方法などが考えられ、勾配の大きいところでは、舗装に穴を開けて松杭を打ち込む接地、ﾄﾚｰﾗｰﾊｳｽなどのﾀｲﾔによる接地の4種類が考えられた。

# 駐車スペースでつくる小屋

## フラワーハット

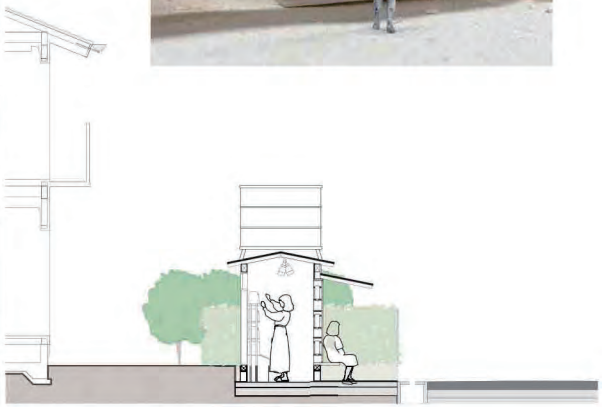
奥の住宅に住む主婦が駐車スペースに花屋を開く。通りにむけて大きく開けられた出窓から、店内の生花が見え、町に彩りを添える。





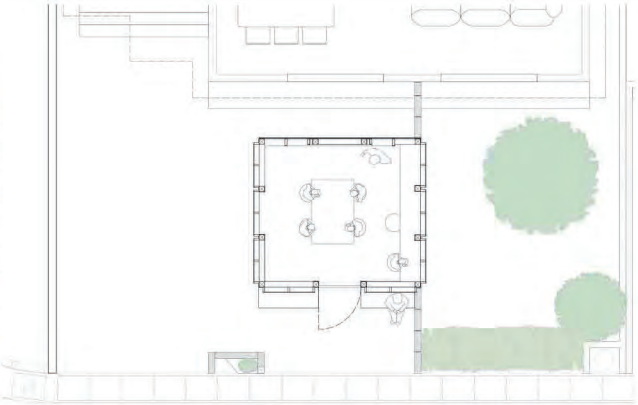
## バルク小屋

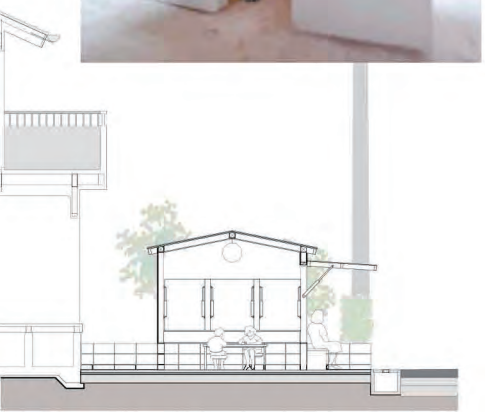
持ち運ぶには重たい洗剤や米、お菓子などの量り売りを行う。町の住人や近くの大学生など、様々な人たちが自分の容器を持って訪れる。中では、計量を行い会計をする人、外では商品を眺める人で賑わう



## まちの寺子屋

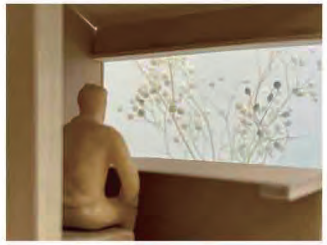
この住宅に住む奥さんが、平日の日中に小学生の子供達に向けた学習塾を開く。学習塾が休みの時には、全面の跳ね上げ式の戸が開き、開放的な空間になる。





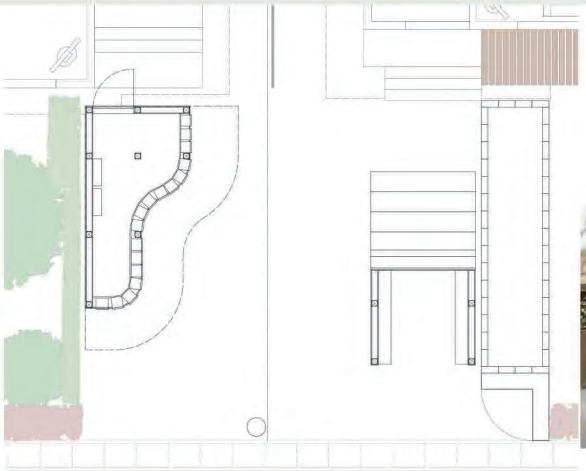
## 本の塔

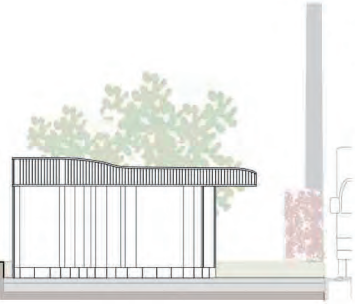
駐車スペースの北側に書庫の塔を建てる。塔の北側壁面に別部屋として設けられた読書室は、奥の住宅の隙間から光が差し込む。読書室が日差しを受けることで、書庫の本を守っている。



## 冷え蔵

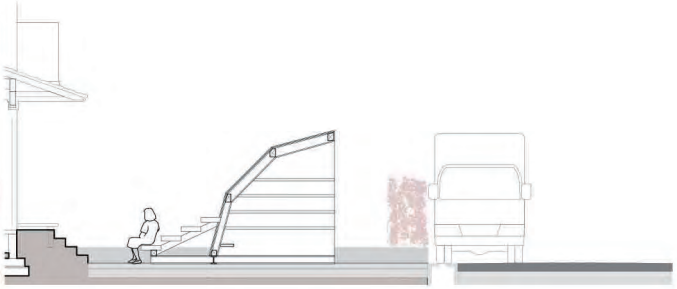
冷蔵・冷凍食品を無人で販売する。スーパーの移動販売車が来た際に、中の商品の補充を行っていく。稗蔵として米を共有していた小屋が、現代版として冷蔵機能をつけて町に開かれる





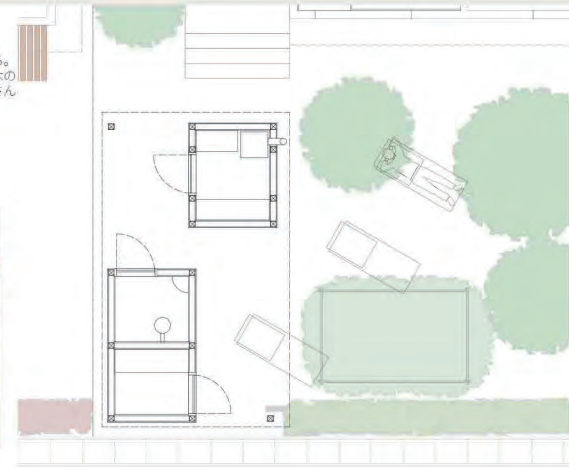
## 東屋

広々と解放された庭の構に東屋を設ける。住宅側にはひな壇状のベンチが設けられ、庭に面する東屋になり、道路側では、半屋外の東屋が開かれる。移動販売車が来た際は、壁面の棚に商品が陳列される。



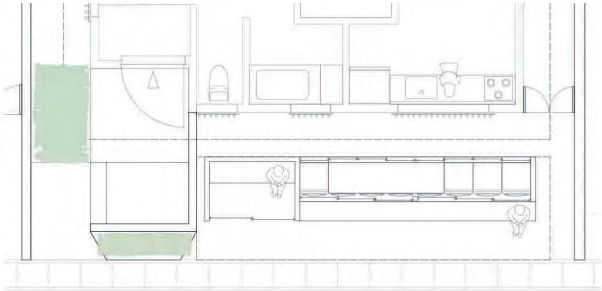
## souna hut

奥の住宅に住む主人が健康のためにサウナ小屋をつくる。高い生垣に囲まれた庭で、外気浴を行う。密集した庭木の間や藤棚の下で過ごす非日常的な時間を周辺のご近所さんと一緒に楽しむ。



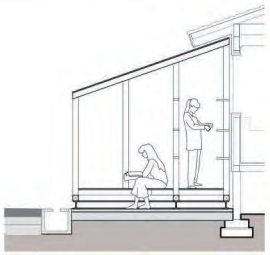
## ランドリーベンチ

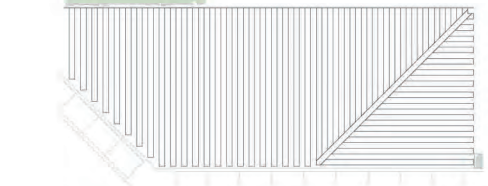
70代の母がコインランドリーを構える。ガラス越しに銀色の洗濯・乾燥機が並んで見える。ランドリーの隣には風や寒さが強い日にの隠れ場になる部屋を作る。深い軒の下では、ハレぐるまが来た際に店先のベンチ席になる。

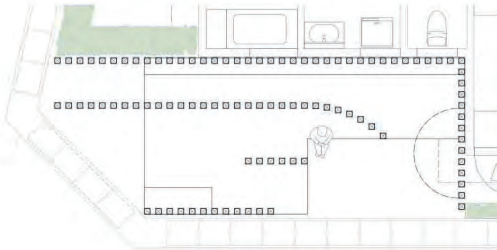


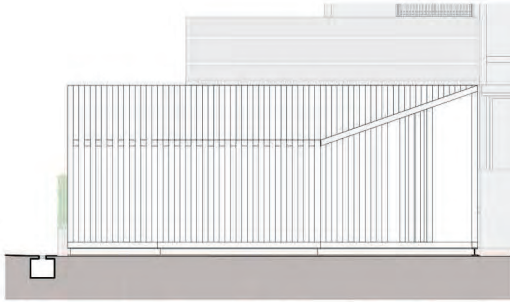
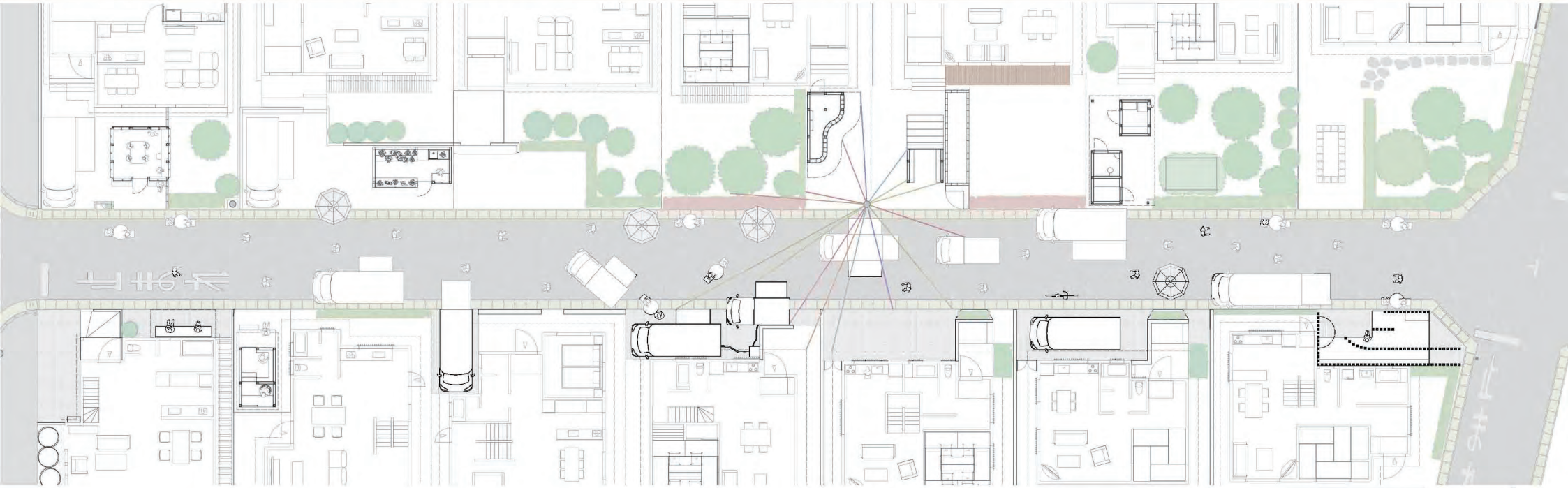
## おすそ分けテラス

町の住人が使わなくなったが、捨てるにはもったいないものを配布する。不要になったものを置きに来る町の住人と、ほしいものがないか探しに来る学生が立ち寄ることで、人と物が集まる場所になる。









ハレぐるまとケごやのまちなみ